TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　379語

Why the Rabbit is Timid

ウサギはなぜおくびょう

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Alex

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　かなしそうな人々に、お月さまは大切な言葉をとどけようと、白いウサギを地上へおつかいに出します。ところがウサギは、うれしくてはしゃぎすぎて……。



One night the moon looked down from the sky upon the people on the earth and said to herself, "How sorrowful they look! I wish I knew what troubles them. The stars and I are never sad, and I do not see why men should be troubled." She listened closely, and she heard the people say, "How happy we should be if death never came to us. Death is always before us."

The path of the moon lies across the sky, and she could not leave it to go to the earth, but she called the white rabbit and said, "Rabbit, should you be afraid to go down to the earth?"

"No," answered the rabbit, "I am not afraid."

"The people on the earth are troubled because death is before them. Now will you go to them and whisper, 'The moon dies every night. You can see it go down into the darkness, but when another night comes, then the moon rises again,'—can you remember to tell them that?"

"Yes," said the rabbit, "I will remember."

"Say this," said the moon: "'The moon dies, but the moon rises again, and so will you.'"

The rabbit was so glad to go to the earth that he danced and leaped and sprang and frolicked, but when he tried to tell the people what the moon had said, he could not remember, and he said, "The moon says that she dies and will not rise again, and so you will die and will not rise again."

The moon saw that the people were still troubled, and she called the rabbit and asked what he had said to them.

"I said that as you die and do not rise, so they too will die and not rise," said the rabbit.

"You did not try to remember, and you must be punished," said the moon, and she fired an arrow tipped with flint at the rabbit.

The arrow struck the rabbit's lip and split it. From that time every rabbit has had a split lip. The rabbit was afraid of the moon, and he was afraid of the people on the earth. He had been brave before, but now he is the most timid of animals, for he is afraid of everything and everybody.

ある夜、お月さまは空から地上の人々を見おろして、ひとりごとを言いました。「なんてかなしそうな顔をしているのかしら！何にこまっているのか、わかればいいのに。星たちもわたしも、かなしくなることなんてないわ。どうして人間がなやむのかわからない。」お月さまがよく耳をすますと、人々がこう言うのが聞こえました。「死ぬことがなければ、どんなにしあわせだろう。いつか死ぬ日が、いつも目の前にあるんだ。」

お月さまの通り道は空を横ぎっているので、お月さまは道をはなれて地上へ行くことはできません。そこで白いウサギをよんで言いました。「ウサギさん、地上へおりていくのはこわいかしら？」

「いいえ」とウサギは答えました。「こわくありません。」

「地上の人々は、いつか死ぬことを思ってなやんでいるの。だから人々のところへ行って、こうささやいてくれる？『お月さまは毎晩死にます。お月さまが暗やみにしずんでいくのが見えるでしょう。でも次の夜が来ると、お月さまはまたのぼってきます』って。それをちゃんとおぼえて伝えられる？」

「はい」とウサギは言いました。「おぼえます。」

「こう言うのよ」とお月さまは言いました。「『お月さまは死ぬけれど、またのぼってくる。だからあなたたちもそうなるのです』って。」

ウサギは地上へ行けるのがうれしくて、おどったりはねたりとびまわったりしてはしゃぎました。ところが、お月さまの言葉を人々に伝えようとしたとき、思い出せなくて、こう言ってしまいました。「お月さまは、自分は死んだらもうのぼってこない、だからあなたたちも死んだらもうもどってこないと言っています。」

お月さまは人々がまだなやんでいるのを見て、ウサギをよび、何と言ったのかたずねました。

「あなたが死んでのぼってこないように、人々も死んだらもどってこないと言いました」とウサギは言いました。

「おまえはおぼえようとしなかったのね。ばつをうけなければなりません」とお月さまは言って、石の矢じりのついた矢をウサギに向かっていました。

矢はウサギのくちびるに当たって、くちびるをさいてしまいました。そのときから、ウサギのくちびるはみんなさけているのです。ウサギはお月さまがこわくなり、地上の人々もこわくなりました。ウサギはそれまでは勇かんでしたが、今では動物の中でいちばんおくびょうです。何もかも、だれもかもがこわいのです。

たんご と クイズ ウサギはなぜおくびょう

moon お月さま	**sky** 空	**stars** 星
rabbit ウサギ	**arrow** 矢	**lip** くちびる
remember おぼえている		

Q1 お月さまが地上へおつかいに出したのはだれ？

① 星　② 白いウサギ　③ フクロウ

Q2 ウサギが言葉をまちがえてしまったのはどうして？

① ねむかったから　② 人々がこわかったから　③ はしゃいで思い出せなかったから

Q3 お月さまの矢は、ウサギのどこに当たった？

① くちびる　② 耳　③ しっぽ

こたえ

Q1 ② お月さまは空の通り道をはなれられないので、白いウサギをよんで、地上の人々に言葉を伝えるようにたのみました。

Q2 ③ 地上へ行けるのがうれしくて、おどったりはねたりしているうちに、お月さまの言葉を思い出せなくなったのです。

Q3 ① 矢はウサギのくちびるに当たってさけてしまいました。それからウサギのくちびるはみんなさけているのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Alex（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。